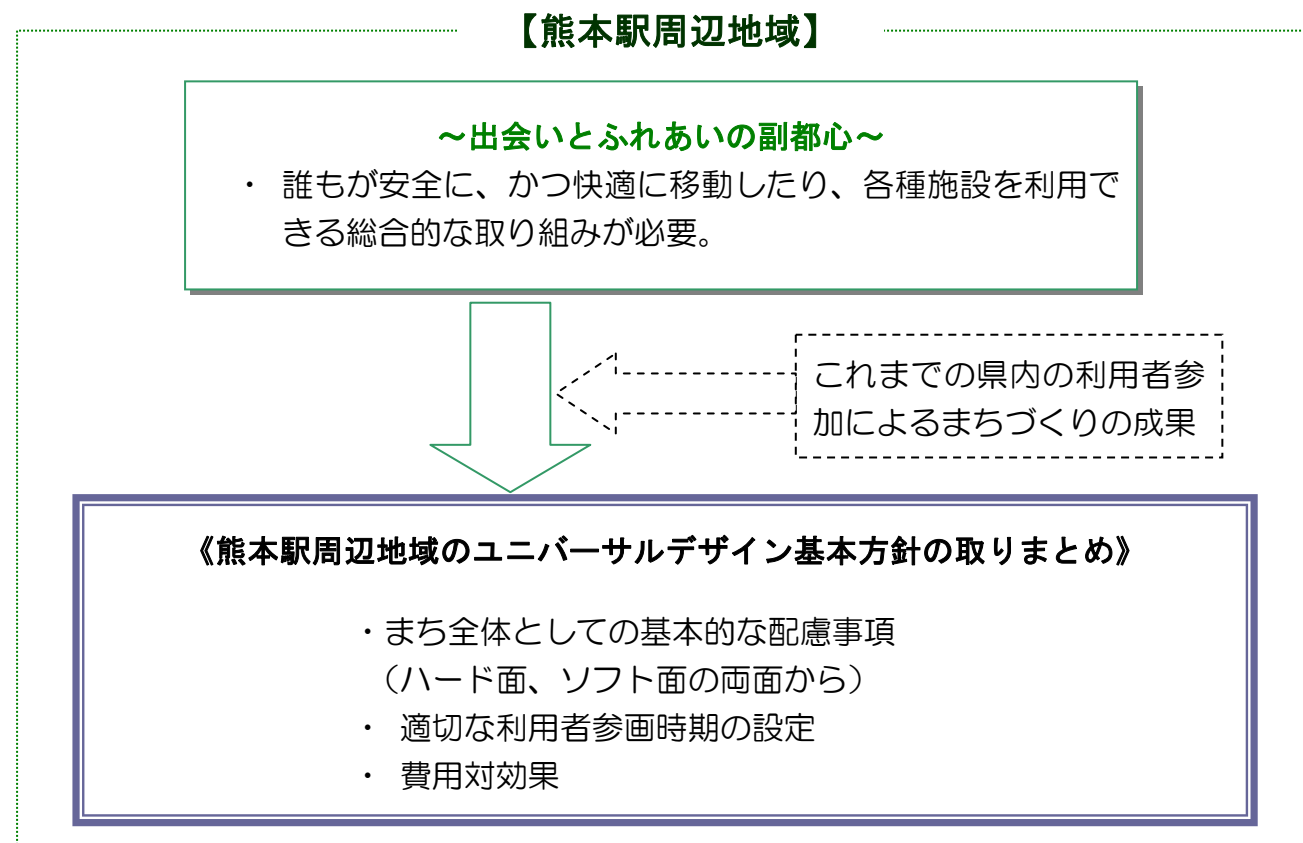
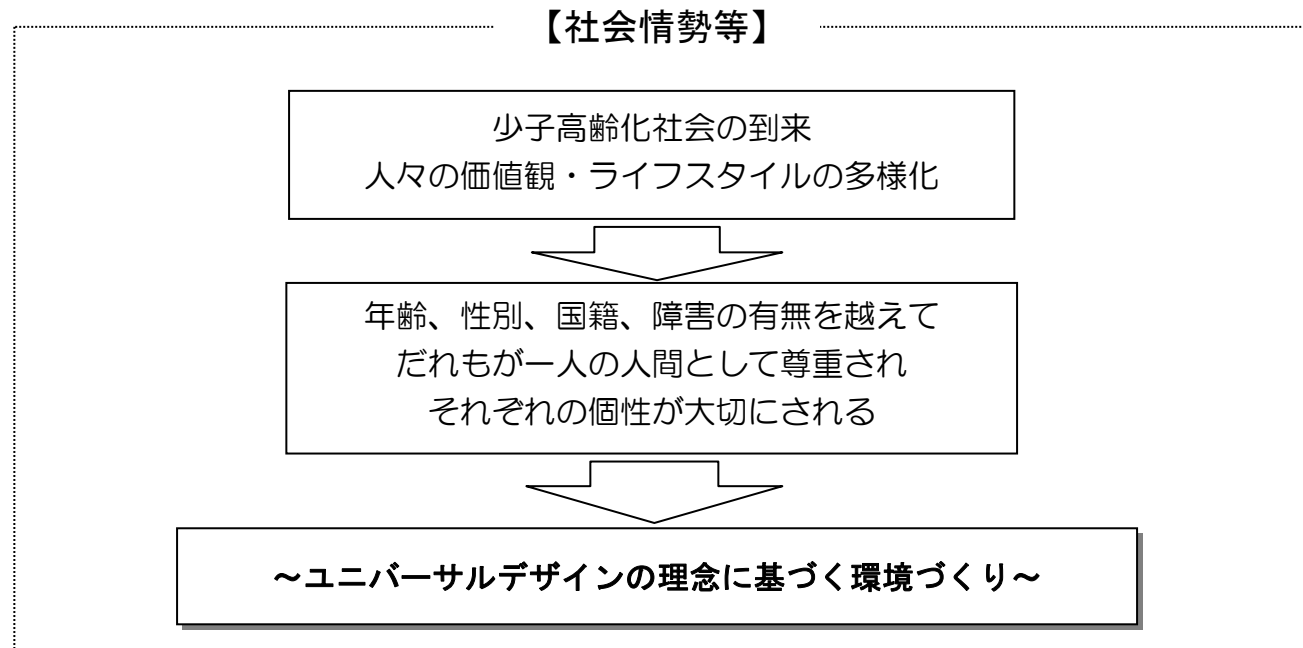

ユニバーサルデザインについて

【目次】

- 1. 熊本駅周辺地域のユニバーサル
デザイン取り組みの基本方針…………… 1
- 2. 公共空間整備に関する
ユニバーサルデザインの考え方…………… 2
- 3. 熊本駅周辺地域のユニバーサル
デザインのイメージ…………… 4
- 4. 熊本駅周辺地域のUDのシステムフロー…………… 5

1. 熊本駅周辺地域のユニバーサルデザイン取り組みの基本方針

(1) ユニバーサルデザイン取り組みに関する基本方針（案）



(2) ユニバーサルデザインによるまちづくりの目標

多様な人々の出会いとふれあいの副都心



(3) 熊本駅周辺地域におけるユニバーサルデザインの考え方

熊本のUDの視点

1すべての人に簡単 2すべての人に快適 3すべての人に安全 4すべての人と状況に柔軟

UDを形作る

- aハード面とソフト面の融合
- b快適な空間づくり
- c環境への配慮
- d安全性の確保
- e価格妥当性

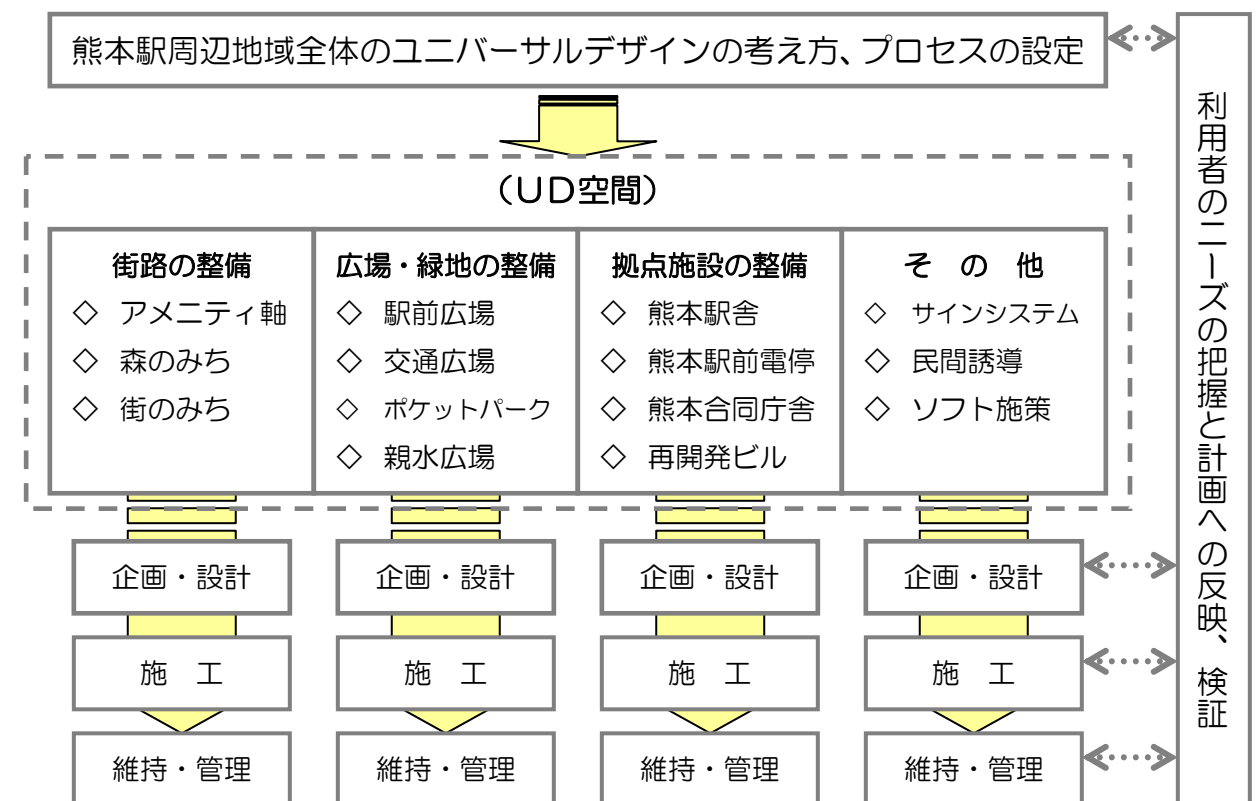
UD空間を考える

- aより良いゾーニング
- bわかりやすい導線計画
- c適正な高低レベルの設定
- d優れたサイン計画

UDを実現する

- a企画、設計、施工段階での利用者参加と検証
- b運営段階等での市民参加
- c維持管理段階での検証

(4) ユニバーサルデザインの実現のためのプロセスの基本姿勢



(1) 熊本駅周辺地域におけるUDの考え方

熊本駅周辺地域の将来ビジョン

まちづくりの理念

- 出会いとふれあいのあるまちづくり
- 人にやさしく利便性の高いまちづくり
- 水と緑の自然や歴史性を活かしたまちづくり

まちづくりのテーマ

人・文化・自然と出会う くまもと・交流舞台 (パーク・ステーション)

- 熊本駅周辺地区に集う人々が九州・熊本の魅力と個性を素材とした情報発信と交流を行う「交流舞台」の形成
- 人々が情報交換や交流したり休憩できる場所(まちにとっての広場や公園)であり新幹線駅と一体となった交流舞台としての『パーク・ステーション』づくり

UD基本方針検討にあたっての視点

UD配置にあたっては、3つの視点から検討する。

- ① 社会情勢等の把握
- ② 都市構造(利用者動線)の検討
- ③ 利用者ニーズの把握

① 社会情勢等の把握

- ・「ユニバーサルデザインの考え方に基づくバリアフリーのあり方を考える懇談会 報告書(平成17年5月)」を参考に、今後のUDを進めるにあたっての考え方を整理し、UDの取り組みを検討。

② 都市構造(利用者動線)の検討

- ・熊本駅周辺地域の歩行者動線の分析より、空間の利用特性に応じたゾーンを設定した。

③ 利用者ニーズの把握

- 障害者、高齢者を始め、乳幼児や小さな子どもと一緒にいる人、外国人等による意見聴取会を実施し、利用者ニーズを把握する。

UD取り組みの基本方針図

広域交通結節点としてのUD

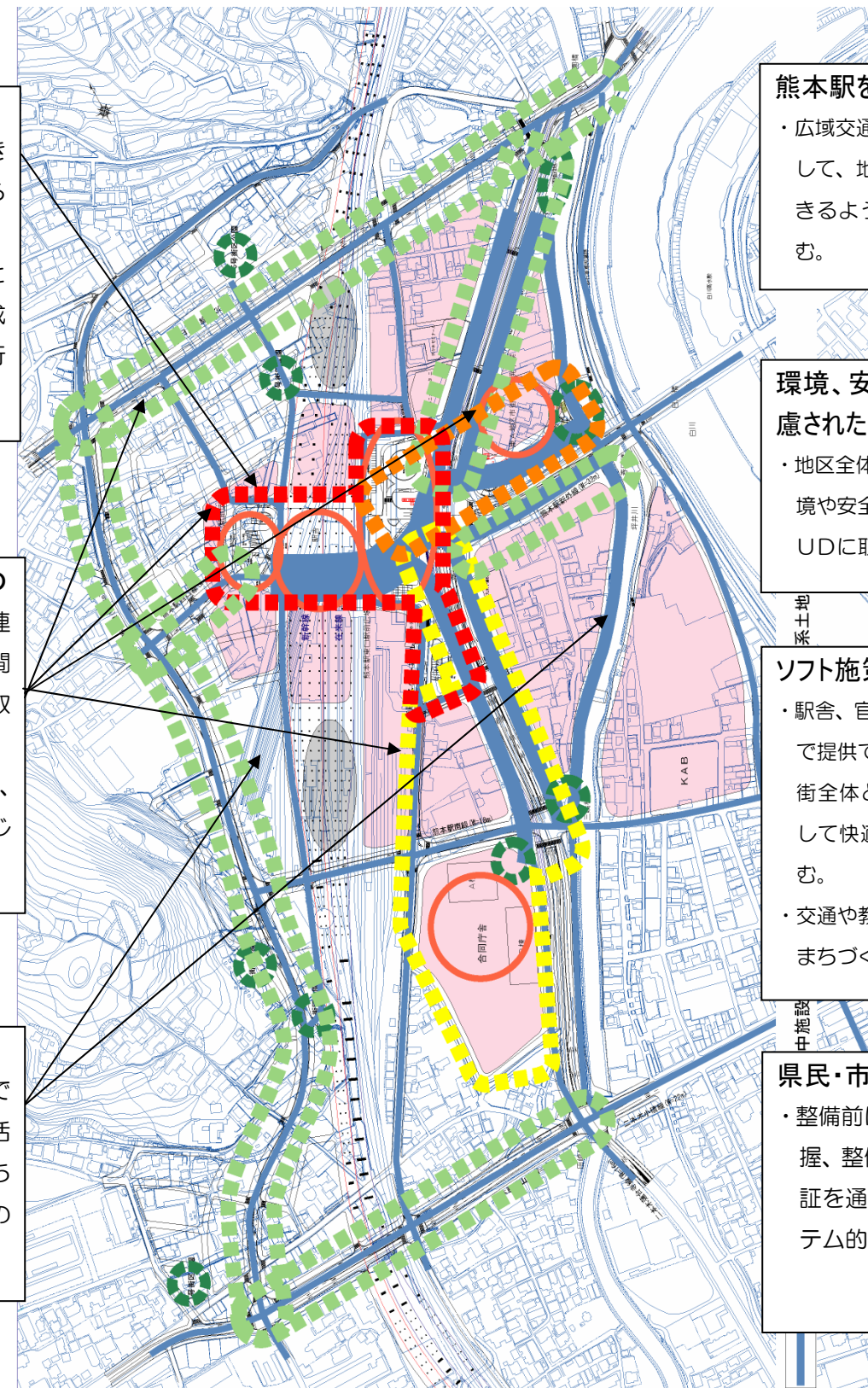
- ・熊本を初めて訪れる多様な人、帰ってきた人を迎えるための円滑な移動や安らぎある心地よい空間を目指す。
- ・利用者が多種多様な情報を求める空間として、分かりやすさに配慮した空間構成や、ソフト的な対応を含む情報提供を行うUDに取り組む。

円滑な移動と交流・憩いを支援するUD

- ・不特定多数の人が利用する公共空間と連続した、多様な人々が集い交流する空間として、多様な活動を支援するUDに取り組む。
- ・熊本の森と水、歴史を楽しむ空間として、休憩のしやすさや、「熊本らしさ」を感じられるUDに取り組む。

住民参加によるUD

- ・UDに関する意識啓発や維持管理段階での住民参画を促すため、新しい都市生活を創造する西ゾーンを中心として、まちづくり、ものづくり段階から地域住民の参画を促す。



熊本駅を中心とした連続的なUD

- ・広域交通結節点である熊本駅を中心として、地区全体が安全で快適に移動できるように、連続的なUDに取り組む。

環境、安全性、価格妥当性に配慮されたUD

- ・地区全体の基本的な考え方として、環境や安全性、価格妥当性に配慮されたUDに取り組む。

ソフト施策が連携するUD

- ・駅舎、官公庁施設、公共的民間施設等で提供できるサービス機能を調整し、街全体として来街者や生活者が安心して快適に行動できるUDに取り組む。
- ・交通や教育、福祉サービスを含めた、まちづくり全体のUDに取り組む。

県民・市民参加のUD

- ・整備前における利用者ニーズの把握、整備後におけるデザインの検証を通じ、利用者参画によるシステム的なアプローチで取り組む。

(2) 都市構造（歩行者動線）から見たUDの考え方

ここでは、歩行者動線の分析から、UDの取り組み方を整理する区域を検討する。

歩行者動線 (太さは交通量を示す) 特定経路 その他バリアフリー経路

